

五所川原

(青森県五所川原市)

注目ポイント！

- 高さ20m超の巨大ねぶた(立佞武多)を復活させ、全国的な観光地へ。
- 市民、行政が一体となった取り組みで観光振興を推進。



五所川原立佞武多客入数が約66万人から約169万人に！
(平成10年) (平成17年)



勇壮な「立佞武多」

コラム

平成5年、明治時代のねぶたの台座の設計図が発見された翌年、五所川原青年会議所30周年記念事業の一環として市民劇団「櫓の音」(団長 岩谷勇幸)が結成され、劇中で高さ7mのねぶたを復元した。これをきっかけに「立佞武多復元の会」が結成され、巨大ねぶたが蘇った。

岩谷氏は、高さ20mの巨大ねぶたを復活させた「立佞武多復元の会」の一員であり、現在は、五所川原市の観光拠点施設として、また市民交流施設として中心市街地活性化に貢献している立佞武多の館の館長として、地域活性化、観光振興に活躍している。



立佞武多の館 館長
岩谷 勇幸氏

これまでの経緯

- | | |
|-------------|---|
| 平成 5年(1993) | 明治時代のねぶたの台座の設計図が発見される。 |
| 平成 8年(1996) | 巨大ねぶたを復活させようと、市民有志による「立佞武多復元の会」が結成される。 |
| 平成10年(1998) | 駅前通りにて立佞武多運行に伴い支障となる電線路移転工事等始める。
夏まつりには「立佞武多」が90年ぶりに市街地を約200m運行された。
東京ドームで「活彩あおもり大祭典」が開催され、立佞武多を出展する。 |
| 平成11年(1999) | 夏まつりには「立佞武多」が中心市街地を約1.5km運行された。 |
| 平成15年(2003) | 電線、電話線、信号機などの障害物の埋設・移設が完成する。 |
| 平成16年(2004) | 立佞武多の館が完成する。 |
| 平成17年(2005) | 夏まつりには「立佞武多」が中心市街地を一巡できる約2.5kmが運行される。 |

蘇る巨大ねぶた(立佞武多)

明治時代、勇壮な姿で練り歩き、隣町からも見えたという伝説の巨大ねぶただが、電気の普及により張り巡らされた電線に追われるように姿を消しておよそ一世紀。

平成8年、当時の写真一枚を元に五所川原市の有志達が高さ20m強のねぶたを復元させ、「立佞武多」と命名。

当初はその大きさゆえ河川敷内でしか運行できなかったが、従来の祭りのように町中でねぶたを運行させたいという地元の機運が高まり、立佞武多運行の支障となる市内の電線類の地中化などを実現。平成10年、市民、行政が一体となった取り組みが実り、巨大ねぶた「五所川原立佞武多」が復活。約一世紀ぶりに市内を運行した。



明治時代後期の巨大ねぶた

立佞武多に会える館

立佞武多の館では、大型立佞武多3台を常時観覧が可能。併設の製作所では巨大ねぶたの制作現場の見学や、金魚ねぶた等の津軽民工芸の制作体験ができる。

また、立佞武多の囃子方として、祭りを盛り上げたいという熱意をもった五所川原市の有志が集まった囃子組みが、五所川原ねぶた囃子の練習を行うとともに、月数回、ねぶた囃子の実演を行っており、観光客にも大好評。

観光拠点施設として、また市民交流施設として中心市街地活性化にも大きく貢献。



金魚ねぶた製作体験



囃子組による実演



立佞武多の館

立佞武多 全国へ発信！

圧倒的な高さを誇る「立佞武多」を、東京ドーム、東京・丸ビル内及び福岡・キャナルシティ博多の広場等に次々と出陣させ展示することで、五所川原立佞武多を広くPR。

各地で観衆を圧倒し、誘客に大いに貢献。



東京ドームにそびえ立つ「立佞武多」

丸ビルに出陣した「立佞武多」



問い合わせ先

- 五所川原市経済商工観光課
Tel : 0173 - 35 - 2111 <http://www.goshogawara.net.pref.aomori.jp>
- 立佞武多の館
Tel : 0173 - 38 - 3232 <http://www.tachineputa.jp>